

堀川再生の推進に関する今後の浄化施策の方向性

1 概要

堀川及び新堀川は、名古屋の都心を流れ、名古屋の歴史とともに歩み、まちの発展を支え、人々のくらしやまちづくりに密接なかかわりを持ってきた河川である。

両河川の水質は、これまで実施した浄化施策により一定の改善を図っているものの、国際都市名古屋にある河川として、より一層の水質改善に努める必要がある。

今般、堀川・新堀川のより一層の水環境改善に向けて、関係局が参画する検討会を立ち上げ、河川や水質などの有識者にご意見を伺いながら、木曾川から堀川への導水をはじめとする様々な水質浄化策について浄化効果等を検証した。

この検証結果を踏まえ、今後の浄化施策の方向性を取りまとめ、これに基づき関係各局が連携し水質改善を推進する。

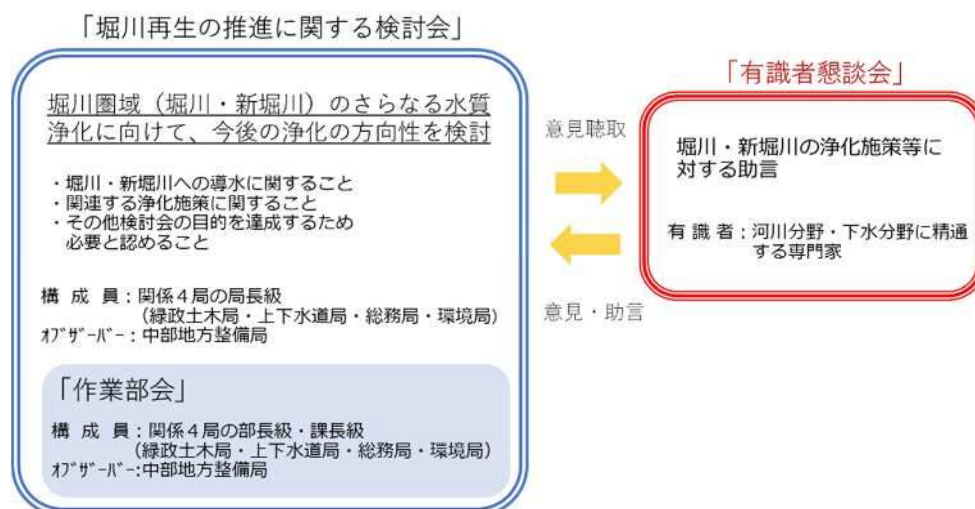
なお、新堀川については、令和2年度に策定した「新堀川の浄化方針」を踏まえ検証を実施している。

2 堀川再生の推進に関する検討会

(1) 目的

堀川・新堀川のさらなる水質浄化に向けて、今後の浄化の方向性を検討することを目的に設立

浄化施策の効果検証においては、有識者からのご意見、ご助言をいただくため有識者懇談会を開催



堀川再生の推進に関する検討会と有識者懇談会の位置付け

(2) 検討会の構成員

役職	所属・補職名
会長	緑政土木局長
副会長	上下水道局長
委員	総務局企画調整監
委員	環境局長
オブザーバー	国土交通省中部地方整備局

※事務局:緑政土木局

(3) 会議の概要

第1回(令和5年6月1日) 検討会設立

第2回(令和5年9月6日) 水質シミュレーションによる浄化施策の効果検証について

第3回(令和6年1月30日) 水質シミュレーション結果について

第4回(令和6年3月28日) 今後の浄化施策の方向性について

3 堀川再生の推進に関する有識者懇談会

(1) 目的

堀川・新堀川の浄化施策等に対するご意見及びご助言をいただく場として開催

(2) 有識者

(五十音順、敬称略)

氏名	役職等	専門分野
かんじょう よしのり 貫上 佳則	大阪公立大学大学院 工学研究科 教授	環境工学、廃棄物処理・処分、 排水処理
だいとう けんじ 大東 憲二	大同大学 情報学部 特任教授	環境地盤工学
とみなが あきひろ 富永 晃宏	名古屋工業大学大学院 工学研究科 名誉教授	河川工学、水理学
まつお なおき 松尾 直規	中部大学 名誉教授	河川工学、環境水理学
よしだ なおこ 吉田 奈央子	名古屋工業大学大学院 工学研究科 准教授	環境微生物学

(3) 会議の概要

第1回(令和5年8月21日) これまでの浄化施策と水質の状況について
今後の浄化施策について

第2回(令和5年12月13日) 水質シミュレーションについて

第3回(令和6年2月20日) 今後の浄化施策の浄化効果について
今後の浄化施策の方向性について

(4) 今後の浄化施策に対する主なご意見・ご助言

【木曽川導水について】

- ・木曽川導水については、堀川の浄化に大変有効なものであるため、早期に実現し、効果検証を進めてほしい。
- ・木曽川導水については、水質シミュレーションによる効果検証だけでなく、実際に導水により水がきれいになり、導水の必要性を実感してもらうことが重要である。

【新規浄化施策について】

- ・新堀川は全域が感潮河川であり、その水質は海水の影響を受けていると考えられる。また、新堀川は、自己水源が乏しく、河床勾配が非常に緩いため水が滞留しやすい状況となっている。こうした中、堀留水処理センターの廃止が決定しており、水の滞留を軽減させるためには、新堀川の水源確保は重要である。このため、堀川からの導水以外にも、更なる地下水の活用や木曽川導水など様々な水源について、今後も引き続き検討してもらいたい。
- ・堀川から新堀川への導水により新堀川の水質が改善する傾向がみられる。
- ・堀川から新堀川への導水については、効率的・効果的な運用方法など検討を進めてもらいたい。
- ・新堀川の溶存酸素量の改善に向けて、引き続き調査検討してもらいたい。
- ・シミュレーション効果予測を確認するためにも、水質の常時観測（24時間観測）等を実施し、実態を捉えることが大切である。
- ・河川の水質は底泥の影響を受けると考えられるため、状況を確認して浚渫などを行う必要がある。
- ・下水道の新規浄化施策完了時は分流化した場合より汚濁負荷量が少ない。分流化を進める場合、時間や費用が非常に大きいため、早期に効果を発現するためには新規浄化施策を進めた方が効果的であると考えます。

【今後の浄化施策の方向性について】

- ・堀川・新堀川の今後の浄化施策の方向性（案）については、異論はない。

4 今後の浄化施策の方向性

堀川再生の推進に関する今後の浄化施策の方向性を河川ごとにとりまとめた。

堀川の今後の浄化施策の方向性

これまで実施してきた浅層地下水の活用、雨水滞水池の整備などの浄化施策に加え、河川整備に合わせたヘドロの除去の着実な実施や、河川へ流入する水の水質改善など庄内川水系として浄化施策を進めるとともに、木曾川から堀川への導水など新規水源の確保に向けて取り組む。

● 主な施策

- ・ 三の丸地区の分流化や簡易処理の消毒強化を進める。（短期施策）
- ・ 河川整備に合わせたヘドロ除去を進める。（短中期施策）
- ・ 雨水滞水池の整備などを進める。（中長期施策）
- ・ 浄化施策の効果が最大限発揮されるよう適切な維持管理に努める。

これまで実施してきた浄化施策に加え、これらの市独自の新規浄化施策の実施により、水質改善が見込める状況であるが、環境目標値達成に向けては、木曾川から堀川への導水など新規水源の確保が必要不可欠である。

また、シミュレーション効果予測の確認を行うとともに、必要に応じて浄化施策の再検討を行うためにも、早期の木曾川から堀川への導水社会実験等が有用であると考えられる。

スケジュール

項目	短期 今後5年程度	中期 今後20年程度	長期
河川整備に合わせたヘドロ除去	護岸整備・河床掘削（ヘドロ除去）【緑政土木局】		
流入水の水質改善	地域を限定した分流化・運用【上下水道局】		
		雨水滞水池の整備・運用【上下水道局】	
	簡易処理の消毒強化・運用【上下水道局】		
新規水源の確保	 【関係各局】		
河川や施設の適切な維持管理	河川や施設の適切な維持管理・モニタリング調査等【各局】		

新堀川の今後の浄化施策の方向性

これまで実施してきた河川へ流入する水の水質改善や、地下水の活用などを進めるとともに、堀川など他水域からの導水を含めた新規水源の確保等の水質改善方法について引き続き調査検討を行う。

● 主な施策

- ・地下水の活用や雨水滞水池の整備などを進める。（短期施策）
- ・地域を限定した分流化、雨水滞水池の増強、簡易処理の能力増強、簡易処理の消毒強化、などを進める。（中長期施策）
- ・他水域からの導水として堀川からの導水を進める。
- ・浄化施策の効果が最大限発揮されるよう適切な維持管理に努める。

これまで実施してきた浄化施策に加え、新規浄化施策の実施により、水質改善が見込める状況であるが、特に上流部の水環境改善に向けて、堀川や他水域からの導水を含めた新規水源の確保等の水質改善方法について引き続き調査検討を行うこととする。

スケジュール

項目	短期 今後5年程度	中期 今後20年程度	長期
流入水の水質改善		地域を限定した分流化・運用【上下水道局】	
	雨水滞水池の整備・運用【上下水道局】		
			雨水滞水池の増強・運用【上下水道局】
			簡易処理の能力増強・運用【上下水道局】 簡易処理の消毒強化・運用【上下水道局】
新規水源の確保	地下水の活用【環境局】		
	工場冷却水の活用【緑政土木局】		
		他水域からの導水【緑政土木局】	
河川や施設の適切な維持管理	河川や施設の適切な維持管理・モニタリング調査等【各局】		